

■ 全体講評

今回実施されたプロジェクトマネージャ全国統一公開模試午後 I の記述式問題は、各問題で記述形式の問いがほとんどで、解答量の多い問題になっています。全くの白紙の解答は少なく皆さんきっちり解答できていますが、設問の要求事項や問題文の解答ポイントがとらえにくく解答しづらい記述式の問いが散見されました。難しいと感じられた人が多かったと思いますが、今回 60 点以上得点できた人は自信をもってよいと思います。得点が芳しくなかった人は解答の要点や表現を見直し、得点を取れるようにする努力を心掛けてください。

午後 I 試験では全 3 問の出題から 2 問を選択解答する必要があります。解答用紙に選択する問題を記すわけですが、きちんと 2 問選んでいない人、丸を付ける欄を間違えて採点欄に丸を付ける人がいました。これは解答以前の問題なのでくれぐれも注意して、指示通り確実に問題選択することを心掛けてください。なお、漢字の間違いや略字、問題文や設問文と国語論理的にずれた解答が見られています。また、単語レベルで説明不足の解答表現も見られています。特に設問要求に解答表現がきちんと論理的に合致しているかに注意してください。

解答のしようもないような難問奇問は、本試験では、出題されることはありません。したがって、午後 I の記述式問題の解答に当たっては、一般的な専門知識を前提に、問題や設問の意図や説明を十分に理解し解答を導いていくことが求められます。どうしても問題文や設問文に手掛かりが見つからないときに初めて、一般的知識による解答を考える必要があります。つまり、問題文や設問文にある解答制約や手掛かりは必ずあると考えましょう。

解答制約や手掛かりを適切に把握すれば、必然的に正解へたどりつくことができると信じて取り組みましょう。この手順に誤りがあった場合、例えば、一方的な思い込みや自分自身の特定な経験に対するこだわりなどによって不正解の解答になってしまうので、設問要求や問題の意図するところを読み取り、確実にいえるレベルの表現で解答していくことが重要となります。

正解したつもりで不正解になってしまった場合は、設問要求に沿っていない、問題文の手掛かりやキーワードに準拠していない、問題文の中で客観的にいえる範囲を超えているという理由であると考えられます。その内容自体は正しくても、その問いの正解としてふさわしくないのです。不適切な解答の中で多いのは、解答のポイントや方向性は間違っていないのに、設問の考えや趣旨

からずれている解答、要求事項や指示に従っていない解答といえます。問題文や設問文に書かれている記述やキーワードは大きなヒントであり、解答の手掛かりの一部であることをしっかり理解した上で、設問要求に沿って適切な表現で解答をまとめるようにしましょう。解答欄に対してボリュームが異常に少ない雑な表現、高度情報処理技術者としてのプロフェッショナル性を感じさせない表現、「そこまで限定して解答できるのだろうか」と感じられる強引な解答表現や、いろいろなことを列挙してどれかが正解に引っかかることを期待するような解答は、採点者に対して心証が悪く、それだけで減点対象となりえます。結果として正解とならないおそれがあるので注意しましょう。

論文系の区分の午後 I 試験はその試験区分の詳細な専門知識がなくても問題文の文脈と一般常識で解答が類推できる場合も少なくありません。PM 区分でも、受験されたほとんどの皆さんが、何らかの開発プロジェクト業務に携わっていると思われ、直接の PM 経験がなくても、自身の業務経験と合わせて最後まであきらめずに取り組み、必ず合格するという強い粘りをもって臨むようにしてください。

<午後 I>

問1 ソフトウェアパッケージの導入

【採点基準】

[設問1]

- (1) 「利用部門の意見が衝突し集約困難」を明確に示し、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 4 点。
- (2) 「一定期間にユーザインタフェースの仕様確定」を明確に示し、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点。

[設問2]

申し入れた理由：「倉庫部門の運用マネージャの無知」を明確に示し、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点。

申し入れた内容：「倉庫業務に詳しい東西のキーパーソンの参画」を明確に示し、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点。

[設問3]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 6 点。
- (2) 「上位職へのエスカレーション」、「要員のアサイン」を明確に示し、解答例と同様の趣旨が適切に指摘さ

れているものに対し5点。

[設問4]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各7点。

【講評】

日用品販売業におけるソフトウェアパッケージ導入に関する問題でした。プロジェクトの環境や状況をとらえ、問題文の文脈や設問の趣旨をよく踏まえて解答する必要があります。表現が揺れやすくかなり難しかったと思われます。選択した人は多かったのですが、なかなか得点を伸ばせない状況が伺えました。

設問1(1)は「利用部門の意見が衝突し集約困難」が解答要点です。この点を明確に示さないと不正解としています。表現が甘い場合、2点としました。(2)は「一定期間にユーザインタフェースの仕様確定」が解答要点です。この点を押さえた場合に5点としています。

設問2の「申し入れた理由」は「倉庫部門の運用マネージャの無知」という点が解答要点です。「申し入れた内容」は、「倉庫業務に詳しい東西のキーパーソンの参画」を適切に表現する必要があります。

設問3(1)は、解答要点をしっかり押さえて解答する必要があります。(2)は「上位職へのエスカレーション」、「要員のアサイン」が解答要点となります。表現の甘い解答は3点としました。

設問4は、「月次から週次」、「工程別からアクティビティ別」を押さえて解答する必要があります。

この問題は、解答表現を絞るのが困難で得点が伸びなかったようです。解答の根拠を明確にしていくことが特に求められます。

問2 ERP パッケージ導入プロジェクト

【採点基準】

[設問1]

- (1) 解答例の解答だけ6点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。
- (3) 解答例の解答だけ6点。

[設問2]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。
- (2) 解答例の解答だけ6点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。
- (4) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているもの

に対し7点。

[設問3]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点。

【講評】

食品卸売業での基幹システムの更改を題材にしたERPパッケージ導入に関する問題でした。本問は、3問中唯一記述でない解答を含んでいます。取り組みやすかったようで、比較的多くの人が選択しています。本問は解答要点や設問要求の意味をしっかりと把握して解答すれば高得点も可能です。ただし、問題文にしたがってその文脈できちんと解答しないと得点が伸びないので、適切な解答を確実に探していくことが求められます。

設問1(1)は、「プロジェクト憲章」が正解です。正答率が高かったように見受けられます。(2)は「業務効率をもたらすことができないリスク」を解答すればよいのですが、リスクを解答するのですから語尾は「～リスク」とします。このような表現のできていない人が多いので注意しましょう。(3)は「各業務部門の部門長」が正解です。これも正答率は高かったです。

設問2(1)は、「プロジェクト方針と逸れる要求に対応しようとした」旨が解答要点になります。(2)は別解はありません。(3)は解答要点の趣旨が合えば正解としました。(4)は(3)の正解が前提で採点しています。要点が甘い場合、得点を4点としました。

設問3は、「業務の詳細な詰めの検討」、「各部門の核となる人」が解答要点です。両方を含んで正解としました。表現が甘い場合は4点としています。

問3 進捗管理の改善

【採点基準】

[設問1]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各5点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し4点。

[設問2]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点。

[設問3]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各4点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点。

[設問4]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点。
(2) 対策案1の課題、対策案2の課題ともに解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各4点。

【講評】

PMOによるプロジェクトマネジメントの改善を題材とした進捗管理の問題でした。一部解答表現を考えにくい問いも見られましたが、比較的適切に解答できています。要求されている解答が何かをよく考えて解答表現する必要があります。

設問1(1)は、解答要点を適切表現できていれば正解ですが、3点なので3つとも挙げられた人は少なかったです。(2)は「会議への必須参加者」が解答要点になります。正答率は高かったと思います。

設問2は、「成果物の提出」が解答要点となります。この問いも正答率は高かったように見受けられます。

設問3(1)は、どれをどう解答するのか迷うところですが、解答要点が解釈できれば正解としています。(2)は、「成果物を確認する」ことが解答要点です。

設問4(1)は、「テストの省略」と「品質が劣化するリスク」が解答要点です。リスクを解答する問いですから「～リスク」と解答する必要があります。(2)は、どちらの解答も「時間」に着目して解答する必要があります。この点が甘いと減点して2点としています。

記述式の解答に際して、設問要求や問題文を踏まえて「問われていることを客観的に確実にいえるレベルの表現で」解答をまとめることが大切です。極端にピンポイントな解答は避けましょう。くれぐれも自分の単純な感覚や経験で解答しないように注意してください。

また、解答表現としては、一般的でない表現や稚拙な表現は避けて、よりプロフェッショナルな表現を心掛けてください。そうすることによって、採点者の心証がよくなり、得点力を高めることができますし、解答の実力を養っていくことにつながります。

なお、どの問題を選択するかは合格するための重要な要素です。3問から2問選択ですので、言い換えると「どの1問を捨てるか」ということになります。一見、解答数が少ない問題が楽そうですが(今回の問題だと問2)、解答数が少ない分、配点が大きいので得点率の変動が大きくなります。有利とはいえませんので、安易な問題選択は避けた方が無難でしょう。実際の問題の難易度は取り組んでみないと何ともいえませんが、問題文のテーマやドメイン、設問文の解答のしやすさなどを目安に迅速

かつ適切に問題選択を行うようにするとよいでしょう。

以上